

インターバンクの声（2015年3月9日）

最近の米経済指標の一部に低調な発表内容が重なっていたためか、市場の雇用統計への予想も非農業部門雇用者数が24万人前後と控えめな数字に留まっていた。ところが蓋を開けてみれば、予想を大きく上回る29万5千人増だった上に、失業率も2008年5月以来の水準となる5.5%まで低下する大幅改善だった。発表前に一旦119円台に下げていたドル円は、瞬く間に120円台後半まで上昇、その後バリアーがあるとされていた121円も突き抜けた。米連邦制度準備理事会（FRB）の利上げが改めて近づいたとの観測が強まったとあれば、もう一段のドル上昇もあるのかとも思われたが、ポジション調整が優先したのかニューヨーク市場は120円台に戻してのクローズだった。あれだけ皆が注目し始めていた雇用統計の中の平均時給の伸びがなかったせいなのか、或いは先週の安倍内閣のアドバイザー本田内閣官房参与の円相場と日銀の追加金融緩和に対する言及が気になっているのか、とにかく無条件のドル買いには見えなかった金曜日のドル円だった。月曜日の日経平均が、大きく値下がりにしたNYダウ平均の影響をどれだけ受けるのかにも注目だ。ポジションの傾きが少し見えて来るまで慎重な取引を心掛けたほうが良さそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。